

**取扱説明書**

**安全上のご注意**

ご使用前に、必ずよくお読みください。

**必ずお守りください**

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

**「警告」と「注意」について**

誤った取り扱いをすることで生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。

**記号表示について**

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。



- この製品の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または裏面のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。

**警告** 「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

**分解禁止**

この機器の内部の部品を分解したり改造したりしない。  
 感電や火災、けが、または故障の原因になります。異常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または裏面のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。

**水に注意**

浴室や雨天時の屋外など湿気が多いところで使用しない。  
 内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐにパワーアンプの電源を切り、お買い上げの販売店または裏面のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

**聴覚障害**

オーディオシステムの電源を入れるときは、パワーアンプをいつも最後に入れる。電源を消すときは、パワーアンプを最初に消す。  
 聴覚障害やスピーカへの損傷になることがあります。

**火に注意**

この機器の近くで、火気を使用しない。火災の原因になります。

**異常に気づいたら**

下記のような異常が発生した場合、すぐにパワーアンプの電源を切る。

- 製品から異常なおいや煙が出た場合
  - 製品の内部に異物が入った場合
  - 使用中に音が出なくなった場合
  - 製品に亀裂、破損がある場合
- そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または裏面のヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。

**注意** 「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

**設置**

塩害や腐食性ガスが発生する場所に設置しない。故障の原因になります。

地震など災害が発生した場合は機器に近づかない。機器が落下して、けがをする原因になります。

この機器を移動するときは、必ず接続ケーブルをすべて外した上で行なう。ケーブルをいたためたり、お客様やほかの方が転倒したりするおそれがあります。

**取り付け工事は、必ずお買い上げの販売店に依頼する。また、取り付ける場合は、以下の点に注意する。**

- この機器の重量に十分に耐えられる取り付け器具と場所を選ぶ
- 継続して振動があるような場所は避ける
- 必ず指定された取り付け工具を使用する
- 定期的に保守点検を行なう

**接続**

ほかの機器と接続する場合は、すべての電源を切った上で行なう。  
 電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器の音量(ボリューム)を最小にする。  
 感電、聴覚障害または機器の損傷になることがあります。

スピーカへの接続には、スピーカ接続専用のケーブルを使用する。  
 それ以外のケーブルを使うと、火災の原因になることがあります。

**取り扱い**

入力端子などに無理な力を加えない。この機器が破損したり、けがをしやすくなる原因になります。

音がひずんだ状態ではこの機器を使用しない。機器が発熱し、火災の原因になることがあります。

接続されたケーブルを引っ張らない。接続されたケーブルを引っ張ると、スピーカが破損したり、けがをしやすくなる原因になります。

この機器と組み合わせるパワーアンプを選ぶとき、パワーアンプの出力レベルがこの機器の許容入力レベル以下であることを確認する。出力レベルが許容入力レベルを超えていると、故障や火災のおそれがあります。

アンプでクリップが生じるような過大な信号や以下のような音(ノイズ)を入力しない。  
 ・マイクフォン使用時のハウリング音  
 ・電子楽器などからの連続した大音量の音  
 ・過度にひずんだ連続音  
 ・アンプの電源を入れた状態でのケーブルの抜き差しによるポップノイズ

パワーアンプの出力レベルがこの機器の許容入力レベルより低い場合でも、機器の損傷、故障や火災のおそれがあります。

PA-6

**注記(ご使用上の注意)**

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

**製品の取り扱い/お手入れに関する注意**

- 直射日光のあたる場所やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所で、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。この機器のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。
- 手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。
- 機器の周囲温度が極端に変化して(機器の移動時や急激な冷暖房など)、機器が結露しているおそれがある場合は、電源を入れずに数時間放置し、結露がなくなってから使用してください。結露した状態で使用すると故障の原因になることがあります。
- スピーカを並列接続する場合は、必ずアンプの規定負荷インピーダンスの範囲内で接続してください。アンプの故障の原因になります。
- 保護回路 本製品は(自動復帰型)の保護回路を内蔵しています。過大な入力が増加すると、保護回路が動作して、音が出なくなります。使用中に音が出なくなった場合は速やかにアンプの音量を下げてください。(数秒~数十秒で自動的に復帰します。)
- グリルを下にして置かないでください。グリルが変形する原因となります。
- 家庭用100V電源には接続しないでください。

**お知らせ**

取扱説明書の記載内容に関するお知らせ  
 この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。  
 ・本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

**主な仕様**

モデル	VXS3F/VXS3FW	VXS3FT/VXS3FTW
形式	フルレンジ、密閉式	
コンポーネント	3.5インチ(9cm)コーン	
公称指向角度(-6 dB)	水平: 150°, 垂直: 160°	
定格インピーダンス	8 Ω	100 Vライン: 670 Ω (15 W), 1.3 kΩ (7.5 W), 2.7 kΩ (3.8 W) 70 Vライン: 330 Ω (15 W), 670 Ω (7.5 W), 1.3 kΩ (3.8 W), 2.7 kΩ (1.9 W)
許容入力	NOISE 20 W PGM 40 W MAX 80 W	
出力音圧レベル <sup>1)</sup>	86 dB SPL (1 W, 1 m) <sup>2)</sup>	
最大出力レベル <sup>3)</sup>	105 dB SPL (1 m)	98 dB SPL (15 W, 1 m) <sup>2)</sup> 95 dB SPL (7.5 W, 1 m) <sup>2)</sup> 92 dB SPL (3.8 W, 1 m) <sup>2)</sup> 89 dB SPL (1.9 W, 1 m) <sup>2)</sup>
再生周波数帯域(-10 dB)	130 Hz - 20 kHz	
コネクタ	ユーロブロック(4ピン)×1(インプット: +/-, ループスルー +/-)ワイヤ最大直径 1.2AWG(3.3 mm <sup>2</sup> )	端子台: ネジ式(4×4接続部)×1(入力: +/-)ワイヤ最大直径 1.2AWG(3.3 mm <sup>2</sup> )
トランスタップ	70 V 100 V	15 W, 7.5 W, 3.8 W, 1.9 W 15 W, 7.5 W, 3.8 W
プロテクション	全帯域においてネットワークとトランスデューサーを保護	
防磁仕様	非防磁型	
防塵・防水仕様	-	
エンクロージャー	キャビネット	VXS3F/VXS3FT: ABS(UL94-5VB)、黒 VXS3FW/VXS3FTW: ABS(UL94-5VB)、白
	パツフル	ABS(UL94-5VB)、黒
メタルグリル	バンテングメタル、SPCC、t0.8mm、開口率55%、粉体塗装	
外装色	VXS3F/VXS3FT: 黒(マンセル N3近似値) VXS3FW/VXS3FTW: 白(マンセル N9近似値)	
寸法(横向き設置、W×H×D)	スピーカ本体のみ ブラケット含む、O' 取付	184×130×95 mm 184×178×139 mm
質量	スピーカ本体のみ ブラケット含む	1.0 kg 1.7 kg
セット	2本セット	

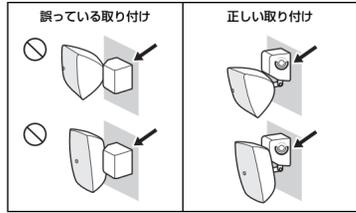
\*1: フルスペース(4 π)  
 \*2: ピンクノイズ(200 Hz~10 kHz)  
 \*3: 許容入力と出力音圧レベルから計算  
 \*この取扱説明書では、印刷時点の最新仕様で説明をしております。最新版の取扱説明書につきましては、ヤマハウェブサイトからダウンロードしてご覧いただけますようお願いいたします。  
 \*寸法図(Dimensions)は裏面にあります。

**スピーカーの取り付け**

付属のブラケットを使って、壁や天井にスピーカーを取り付けます。取り付け場所に十分な強度があることを確認してから、取り付けてください。VXS3F/VXS3FWとVXS3FT/VXS3FTWで設置条件が若干異なります。設置方法については、「VXS3F/VXS3FW/VXS3FT/VXS3FTW 設置ガイド」を参照してください。

**注意**

ブラケットを横向きに取り付けしないでください。



**事前準備(ケーブルの処理)**

**■ケーブルの処理**

使用するケーブルは図のようにむき出して配線してください。



**NOTE**

- AWG12(3.5sq)までの太さのケーブルを使用してください。
- 断線の原因となりますので、より線を使用する場合は、はんだめっきしないでください。

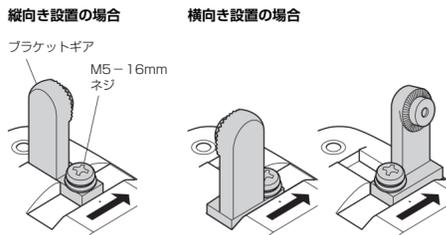
**■タップ選択スイッチ(VXS3FT/VXS3FTWのみ)**

取り付け位置によっては、取り付け後にブラケットベース側面にあるタップ選択スイッチを回さない場合があります。その場合は、ブラケットベースを取り付ける前に設定してください。



**1 ブラケットギアを取り付ける**

- ブラケットギアをスピーカ本体に取り付けます。ブラケットギアは付属のスピーカ取り付け用ネジを使って取り付けてください。取り付け方は、縦向き設置/横向き設置で異なります。



**NOTE**

- 「VXS3F/VXS3FW/VXS3FT/VXS3FTW 設置ガイド」を参照して取り付けの方向を決めてください。
- グリルを下にして置くときは、グリルが変形しないように柔らかい布の上に置いてください。

**2 ブラケットベースを壁や天井に取り付ける**

- 必要に応じて壁や天井にボルトやケーブル用の穴を開け、開けた穴からボルトやケーブルを引き出します。

**NOTE**

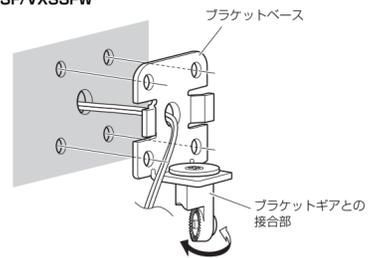
穴を開ける位置は、壁や天井にブラケットベースをあてる寸法図を確認して決めてください。

- 壁や天井にブラケットベースを取り付けます。

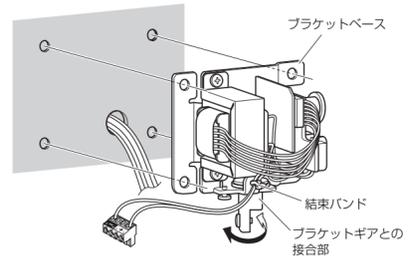
**NOTE**

必要に応じてブラケットギアとの接合部を半回転させてください。

**VXS3F/VXS3FW**



**VXS3FT/VXS3FTW**



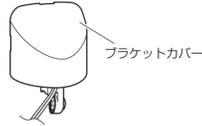
**NOTE**

- 取り付けの際にケーブルが邪魔なときは、結束バンドを切ってください。結束バンドを切るときに、誤ってケーブルを切らないように注意してください。
- 必要に応じて、ブラケットベースを取り付ける前にスピーカケーブルを接続してください。

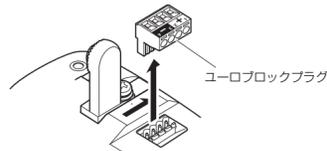
**3 スピーカケーブルを接続する**

**■VXS3F/VXS3FWの場合**

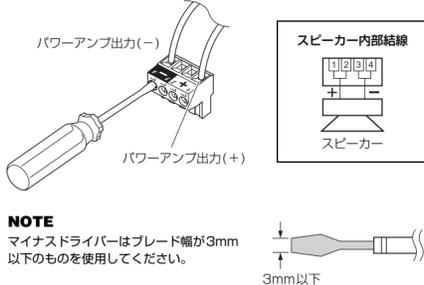
- ブラケットベースにブラケットカバーをはめます。



- スピーカ本体からユーロブロックプラグを取り外します。



- ユーロブロックプラグの端子ネジをマイナスドライバーでゆるめたあと、各結線部にケーブルを差し込み、端子ネジをしっかりと締め付けます。ケーブルを引っ張って抜けないことを確認してください。



**■VXS3FT/VXS3FTWの場合**

**注意**

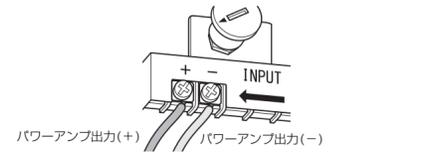
ハインピーダンス接続のときは、接続するスピーカの入力ワット数の合計が、パワーアンプの定格出力を下回るようにしてください。詳細については、以下のURLにあるハインピーダンス接続の説明を参照してください。

ヤマハプロオーディオサイト「商業空間のよりよい音作り」:  
[http://www.yamahaproaudio.com/japan/ja/training\\_support/better\\_sound/](http://www.yamahaproaudio.com/japan/ja/training_support/better_sound/)

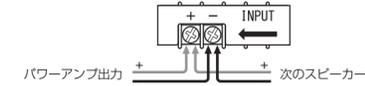
**NOTE**

家庭用100V電源には接続しないでください。

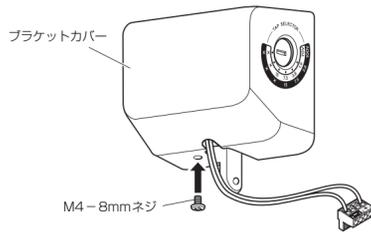
- ブラケットベースの端子台の入力用ネジをプラスドライバーでゆるめたあと、端子台にケーブルを差し込み、ネジをしっかりと締め付けます。ケーブルを引っ張って抜けないことを確認してください。



次のスピーカに並列接続して配線する場合は、1つの端子に2本のケーブルをまとめて接続します。



- ブラケットベースにブラケットカバーをはめて、ブラケットカバー固定用ネジで固定します。



- ブラケットベース側面にあるタップ選択スイッチをマイナスドライバーなどで回して、入力ワット数のタップを選んでください。イラストは、100Vライン設定時に15W、70Vライン設定時に7.5Wとなる設定を表わしています。



**注意**

タップ選択スイッチを操作するときは、アンプの電源を落としてから作業してください。

**4 スピーカをブラケットベースに取り付ける**

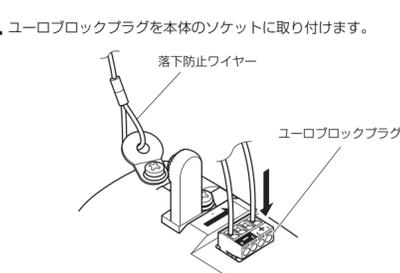
- 落下防止ワイヤーを壁や天井に取り付けます。

**注意**

- 必ず落下防止対策を施してください。
- 落下防止ワイヤーを壁に取り付ける場合は、スピーカの落下防止ワイヤー取り付け位置より高いところに、あまりたるみが出ないように取り付けてください。

付属の落下防止ワイヤーで長さが足りない場合は、スピーカの重量、設置状況を考えて適切な長さや強度の物をご用意ください。長さに余裕がありすぎると、落下時にワイヤーに負荷が多くなり断線する可能性があります。

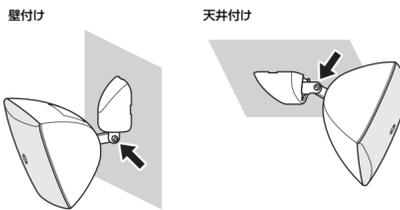
- 落下防止ワイヤーをスピーカ本体に取り付けます。



- ユーロブロックプラグを本体のソケットに取り付けます。

- 上下の角度を調節し、ブラケットギアをブラケットベースにプラスドライバーでネジ締めします。

**VXS3F/VXS3FW**



**VXS3FT/VXS3FTW**

